

人それぞれに**宝もの**がある

地域遺産・まちの宝もの

口内町の民家の庭先に「かまくら」がある。
近くの子どもたちは
気を付けながら自由に遊んでいる。
小さな遊びの伝統。
子どもたちは
季節限定の宝ものと
この冬を楽しんだことだろう。

大切にしたい 人がいる。 物がある。
伝えられてきたものがある。
思い出がある。

空気のように普通のものがある。
そして、まだ気付いていないものもある。

誰にでも大切にしたい宝ものがあります。
人であったり、物であったり、
思いであったり、言葉であったり、
感じることであったり、
人それぞれに宝ものはあります。

地球上の宝ものは「世界遺産」：
日本の宝ものは「国宝」「天然記念物」：
岩手の宝もの、北上の宝もの、
そして、地域の宝ものは何でしょう。
それぞれに宝ものはあります。

地域で大切にしているもの、
残していきたい、伝えていきたい、
地域遺産、まちの宝もの。
たくさん宝ものの中から
16地区からひとつずつ紹介していきます。

まだまだ
数え切れないほどの宝ものがあります。
皆さんも

それぞれの思いの「まちの宝もの」と
「わたしの宝もの」を見つけてみませんか。

今回、16地区の交流センターの皆さんに、地域で大切にしているもの、次の世代に伝えていきたいものを尋ねてみました。

たくさん地域遺産、宝ものを教えていただきましたが、ここでは、各地域のほんの一部の宝ものをピックアップして紹介します。

●黒沢尻北地区

▼旧国産軽工業の門扉▼新堰水辺公園▼国体記念館▼地域の芸能▼常盤台地名由来の碑▼高田弥市氏供養塔▼庚申供養碑▼常盤台児童公園「しだれ桜」▼御旅屋 など

●黒沢尻東地区

▼黒沢尻河港跡▼安倍館跡▼諏訪神社▼染黒寺▼小鳥崎の大力ヤ(榎)▼黒沢尻病院▼旧平和街道起点跡▼キャサリン台風、アイオン台風洪水水位標示▼澤藤幸治氏 など

●黒沢尻西地区

▼詩歌の森公園▼日本現代詩歌文学館▼代官所跡▼明治天皇御駐蹕跡▼脇本陣跡、本陣(鍵屋跡)▼馬検場跡▼宮沢賢治詩碑など文学碑▼軽便鉄道跡▼九年橋遺跡 など

●立花地区

▼展勝地▼陣ヶ丘▼珊瑚橋▼立花郷土芸能▼立花毘沙門堂▼高館城跡▼鎧八幡▼博物館・みちのく民俗村▼サトウハチロー記念館▼利根山光人記念美術館▼北上夜曲碑 など

●飯豊地区

▼成田一里塚▼飯豊森▼奥寺堰▼奥寺神社▼農業ふれあい公園▼農業研究センター▼生物工学研究所▼遊行上人塚▼成田八幡神社▼伊勢神社▼ミズバシヨウ群生地 など

●二子地区

▼二子城跡(飛勢城跡)▼鬼剣舞や神楽などの民俗芸能▼二子さといも、二子長いも、二子米などの農産物▼五輪塔▼龍神石▼渡し場跡▼二子の里・いものこまつり など

●更木地区

▼八天遺跡▼コウホネ群生地▼大竹廃寺▼更木の15館▼喜久盛酒造▼臥牛とうふ▼桑茶▼平野直文学碑▼しらゆり公園▼「注文の多い料理店」モデルの家・中村宅 など

●黒岩地区

▼黒岩太神楽「めでた舞」▼白

山の森▼白山廃寺跡▼親水公園「お滝さん」▼黒岩まんなか広場▼お田の神様▼黒岩農村公園▼岩崎城▼元館・片月遺跡▼北上川の伝説 など

●口内地区

▼浮牛城▼民俗芸能▼菊池長兵衛▼溜め池▼金峰山萬蔵寺と阿古耶谷▼愛宕山▼十石の泉▼浅間神社▼古館神社▼国ヶ森神社▼宝積寺▼宗賢寺▼菅原神社▼麓山神社 など

まだある16地区の
主な地域遺産・まちの宝もの



春の訪れを告げる福寿草は、心ませる小さな宝もの

●稲瀬地区

▼国見山廃寺跡▼榊山遺跡▼聖塚・河野通信墓▼国見山展望台▼内門岡お盆行事の灯ろう▼国見山・男山の観音像▼門岡念仏剣舞▼下門岡エドヒガンザクラ など

●相去地区

▼南部領伊達領境塚▼高前檀館跡▼鶴野館跡▼奈良山観音▼三十人町の屋敷並み▼大堤公園▼旧相去足軽百人町▼白山神社▼相去鬼剣舞、相去鹿踊▼門準の森 など

●鬼柳地区

▼鬼柳鹿島館▼八幡神社▼白髭神社▼鬼柳盆踊り▼鬼柳鬼剣舞▼鬼柳の川を考える会(めだかクラブ)▼南部領伊達領▼和賀川ふれあい広場▼御番所跡▼丸子館跡 など

●江釣子地区

▼清水の里▼和賀川桜並木▼伝統民俗芸能▼和賀川グリーンパーク▼全明寺▼さくらづつみ▼五条丸、猫谷地、八幡の江釣子古墳群▼カムイ・ヘチリコホ など

●和賀地区

▼和泉式部の墓▼中尊寺ハス

▼田植え踊り▼秀衡街道▼久那斗神社・多間院伊澤家▼水沢鉦山跡▼愛宕山遺跡(吉沢)▼姥杉▼奥寺堰▼鳥屋脇のエドヒガンザクラ など

●岩崎地区

▼夏油温泉▼南部領伊達領境塚▼鬼の館▼岩崎城址▼岩崎鬼剣舞▼煤孫ひな子剣舞▼和賀大乘神楽▼夏油神楽▼外島(よそじま)神楽▼入畑ダム▼水神、入畑、瀬美温泉 など

●藤根地区

▼北上平和記念展示館▼平和観音堂▼後藤野飛行場▼ざぜん草の里▼地区の郷土芸能▼長沼古墳群▼後藤野稻荷神社▼水神様▼名水長清水▼稲葉神社▼藤根寺 など

これらの地域遺産・まちの宝ものをみると、地域それぞれの特色と歴史、思いが込められているのがわかります。北上市は、地域の「宝もの」「資源」の集合体なので、これからは、みんなで活用しながら、次の世代へ伝えていくことを考えるときなのかもしれません。

※次のページからは、▼印の宝ものを簡単に紹介します。

旧国産軽銀工業の門

1 黒沢尻北地区

所在地：常盤台二丁目地内
市総合福祉センター東側

「国産軽銀工業(株)岩手工場」は昭和12年、軍用機の材料となるアルミニウムの製造原料・酸化アルミニウム(アルミナ)を生産する軍事工場。昭和20年8月10日、米軍の空襲で大きな被害を受け、現在は門扉を残すのみである。

「国産軽銀は昭和20年、黒沢尻中学校(現黒北高)のときに学徒動員で行き、その後4月から8月までの5カ月間勤めました。工場は12棟、倉庫は11棟ほどあって在籍者は1400人、常時900人ぐらいが働いていました。当時は戦争の勝利に向いていた時代で、一生懸命でした…ここに戦争にかかわっていた工場があったという証拠は、今はこの門扉だけです。悲惨な戦争を風化させないように、伝えていってほしいものです」佐藤寛さん(常盤台・83歳=写真5頁)



昭和20年8月10日の空襲で大きな被害を受けた国産軽銀

詩歌の森公園

2 黒沢尻西地区

所在地：本石町二丁目地内

草木や池、岩組み、築山など四季を通して楽しめる公園。4畝の広大な敷地内には、日本唯一の現代詩歌を対象とした日本現代詩歌文学館がある。収集した資料は100万点を越し、館内には井上靖記念室もある。園内には山口青邨宅や文学碑などが配置されている。

「市街地の中央にあって、自然・文化環境が整っている公園です。昭和55年まで黒沢尻工業高校があった場所ですので、広大な敷地が残されたのです。園内には文学碑や姉妹・友好都市の米國コンコードと中国三門峡市との交流の碑、隣接して中央図書館があります。この公園を北上の文化発展の象徴として、また文化・詩歌をテーマとして活用していきたいですね。四季折々の表情も楽しめますので、皆さんにいらしてほしい場所です」黒西地区自治協議会会長 八重樫哲さん



文化のメッカにと、おととしから開催している「詩歌の森公園文化祭り」

黒沢尻河港跡

3 黒沢尻東地区

所在地：川岸一丁目、三丁目地内

古くから交通の大動脈として利用されてきた北上川。中でも藩政時代には舟運が活発となり、南部藩と伊達藩の物資流通の拠点として重要な役割を担ってきた黒沢尻(川岸、河岸)河港。周辺には南部藩の御蔵奉行所などが設置され大いに栄えたが、現在はその建物は残っていない。

「鉄道や自動車など、交通・運輸手段が変化していく中で、北上川舟運は衰退しました。しかし、北上の人々の暮らしや産業などの発展に大きな役割を果たしてきたのは確かです。現在では、当手を認識できるものはほとんど残っていませんが、案内板を設置したり、ハイキングコースを設定してウォーキングマップや案内書を作成して見て歩いていきます。また、紙芝居を作成して子どもたちに伝えていく工夫もしています」黒東地区新地域づくり実行委員 澤田泰一さん(写真左)



子どもたちにも地域を知ってもらおうと紙芝居を作り、活用している

八天遺跡

4 更木地区

所在地：更木町34地割(八天)地内

縄文時代後期(3~4千年前)の遺跡。国内最大級(当時の)大型円形建物跡が発見され、昭和53年に国史跡に指定。出土した「耳・鼻・口型土製品」も平成4年に国指定考古資料となっている。考古学上重要な発見とされており、縄文文化に学ぶことは多くある。

「地域みんなが縄文文化に親しみ、地域の宝を再認識する機会として「八天縄文まつり」をおとしから開催しています。先人が築き、残してきた文化は、形が残ってなくても、伝えていこうと考えています。地域には、この遺跡だけではなく、15の館跡など多くの先人の遺産があります。どのように伝え残し、活用していけばいいのか、地域みんなが参加する勉強会を開催していきたいですね」更木地区交流センター地域づくり指導員 小田島成良さん



「八天縄文まつり」では、火おこしなどの体験や地域の特産の桑茶も味わえる

二子城跡(飛勢城跡)

5 二子地区

所在地：二子町地内

中世和賀氏の居城跡(別名飛勢城跡)で、和賀郡最大の城郭跡である。築城年代は不明。二子城が本城となるのは15世紀ごろとされる。天正18(1590)年、豊田秀吉の奥州仕置によって廃城。周辺には和賀氏の氏神白鳥神社や重臣たちの館名などを多く残している。

「先人たちの偉大な功績をしのびながら、民俗芸能をはじめとする伝承活動も盛んなので、その継承に率先して参加、協力してきました。植栽や草刈などの環境整備作業、散策マップや景観保全のポスター作成、歴史や史跡に関する勉強会や町内の名所旧跡を巡る会の開催、子どもを対象とした紙芝居などで、郷土愛の醸成に取り組んでいます。今後も活動を継続していきながら、案内看板の設置なども進めていく予定です」二子地区交流センター事務長 及川正男さん



地域みんなでお名所を巡る「歩いて二子を観よう会」

黒岩太神楽「めでた舞」

6 黒岩地区

伝承地：黒岩地内

文化3(1806)年から引き継がれている。一時期中断したが昭和48年、北上川に中央橋が完成した時に祝賀の芸を披露し復活。以来伝承している民俗芸能である。54年からは小学生を対象に伝承教室を開催している。

「毎年1月の第2土曜日から8日間の日程で、小学4、5年生を対象として伝承教室「めでた舞」寒げいこを開催しています。平成15年からは4年生を対象に黒岩太鼓も行っています。地域の文化を大人から子どもへ伝承しながら、創造意欲や交流を楽しむ力を育てることにつながっていくと思います。また、伝えていくことで地元と子どもたちの財産となっていくことを期待しています。その中で、後継者が育ってほしいと願っています」小学生の指導に当たっている昆美知男さん



「一所懸命けいこに取り組むことで、子どもたちは自信がついていく」と昆さん

展勝地

7 立花地区

所在地：立花、稲瀬地内

川岸の当時の黒沢尻町長澤藤幸治氏の発案により大正10(1921)年、桜2000本、ツツジ500本が植えられ、「和賀展勝地」と命名された。北上川沿いの約2*に及ぶ桜並木は、平成2年に「日本さくら名所100選」、21年には日本経済新聞の「歩いて楽しい桜並木」全国2位に選ばれる。

「展勝地園内にある陣ヶ丘は、展勝地小唄にもうたわれている絶景の地であり、中世館跡という歴史もあります。この周辺の環境を整備し、地域活性化に役立てながら、次世代に守りつなげていきたいですね」立花地区交流センター 阿部剛さん(写真右から2人目)

「展勝地とその周辺の説明板(マップ)を作成しました。ウォーキングマップを基に、親子でテクテクと歩いてみてほしいですね」同地区地域づくり運営委員長 菅原一夫さん(写真右から3人目)



「このマップを見て、展勝地と立花の史跡を歩いてみてください」と菅原さん

浮牛城

8 口内地区

所在地：口内地内

安倍貞任の築城で、牛3頭を埋めて地鎮したとの伝説がある。元禄8(1695)年、伊達藩重臣中島氏が領主となり、明治まで続いた。伊達藩の北端に位置する藩境の要害で金井城といわれていた。浮牛城(館)と呼ぶようになったのは享保12(1727)年ごろだという。

「昔から子どもたちの遊び場にもなっていて、町民から親しまれている場所です。以前は、周辺を高い杉や松の木が覆っていたので林のようでした。自治協議会で平成17年から環境整備に取り組んだ結果、小高い姿が見られるようになりました。その後も町民のボランティアで清掃、草刈活動を続けています。19年からは大名行列をメインに「浮牛城まつり」を開催。今では口内で最大のイベントになっています」口内地区交流センター事務長 菅野甚一さん

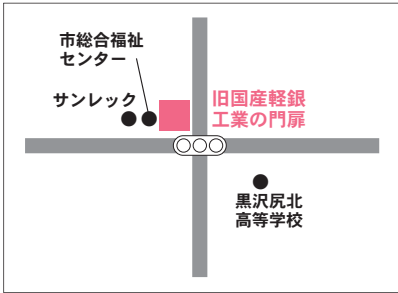


2月10日、地元の渡邊兵衛さんを講師に浮牛城勉強会を開催。今後も継続する

1 旧国産軽銀工業の門扉



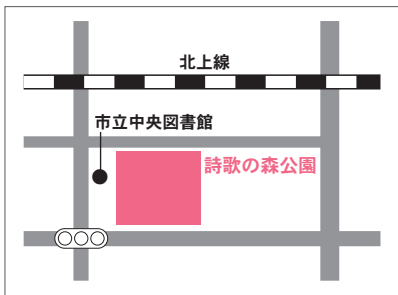
残された門扉の西側には、事務所があったという



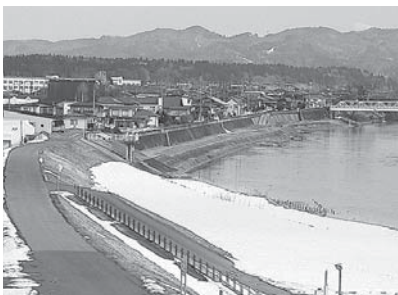
2 詩歌の森公園



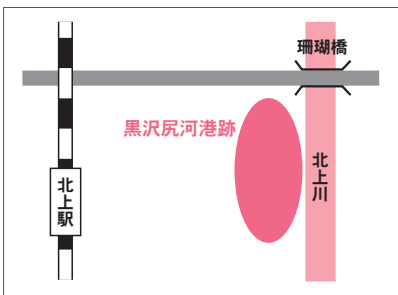
市街地に位置する公園は、市民の交流の場でもある



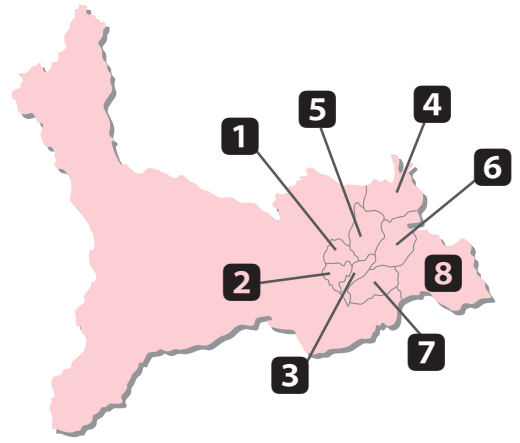
3 黒沢尻河港跡



かつては、多くのひらた船や小繰船が往来していた交易の拠点であった

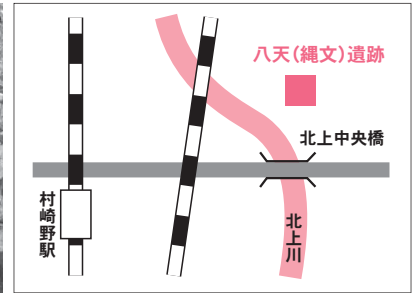


- 1 黒沢尻北地区
- 2 黒沢尻西地区
- 3 黒沢尻東地区
- 4 更木地区
- 5 二子地区
- 6 黒岩地区
- 7 立花地区
- 8 口内地区



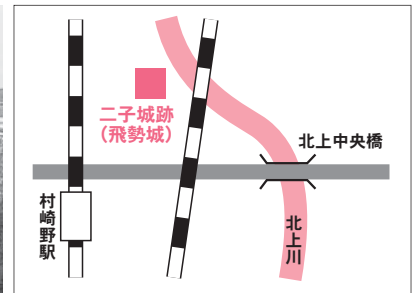
再発掘調査の現地説明会には多くの市民が訪れた

4 八天(縄文)遺跡



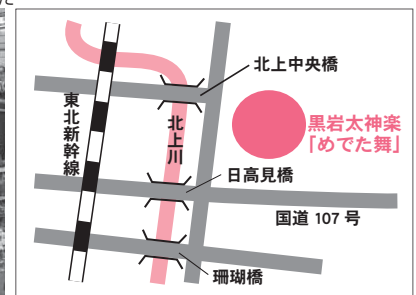
展望台からは北上川が一望できる

5 二子城跡(飛勢城跡)



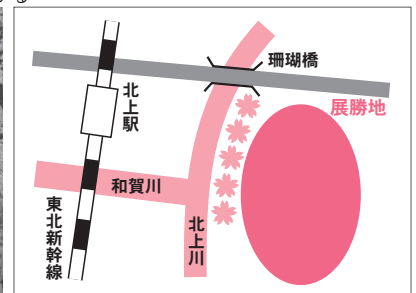
寒げいこの最終日には、父母らを前に堂々と発表した

6 黒岩太神楽「めでた舞」



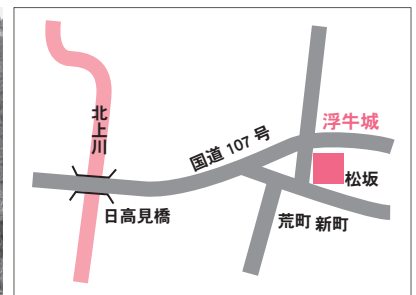
毎年たくさんの人たちが、桜のトンネルを楽しんでいる

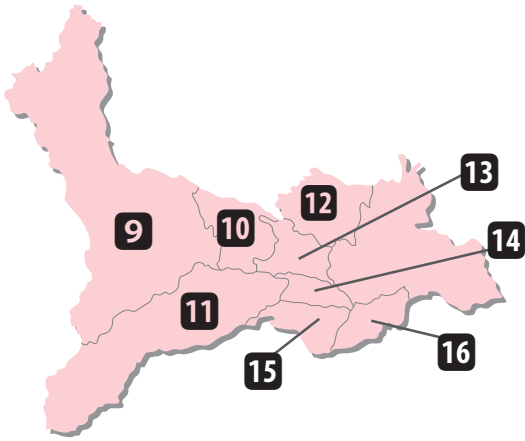
7 展勝地



環境整備が進み、誰でもが訪れやすくなっている

8 浮牛城

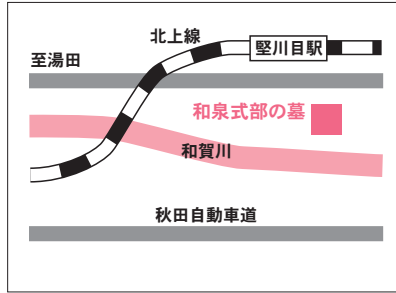




- 9 和賀地区
- 10 藤根地区
- 11 岩崎地区
- 12 飯豊地区
- 13 江釣子地区
- 14 鬼柳地区
- 15 相去地区
- 16 稲瀬地区

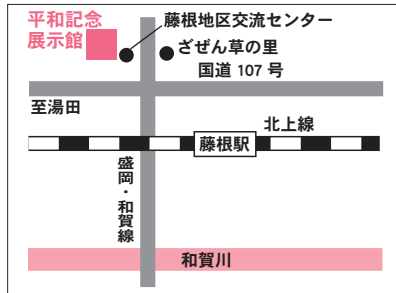
伝説は、都へのあこがれと夢をのせた出世物語ともいわれている

9 和泉式部の墓



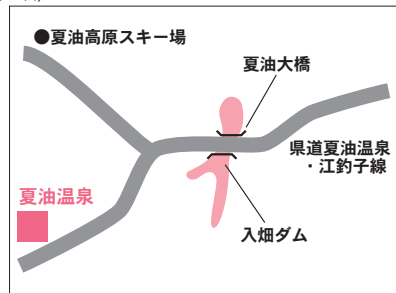
ここでは戦争の悲惨さ、むなしさを遺品たちが語ってくれる

10 北上平和記念展示館



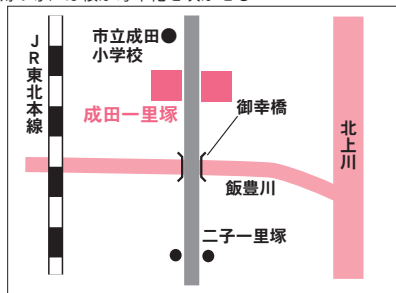
国の天然記念物に指定されている石灰華ドーム(天狗の岩)

11 夏油温泉



西側の塚(右)には樹齢400年といわれるケヤキが、東側の塚には桜が毎年花を咲かせる

12 成田一里塚



清水を活用した公園「えづりこすずの里」は2キロの遊歩道やあずまや、池などがある(写真は佐野公園)

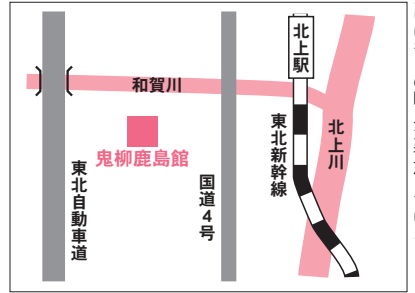
13 清水(すず)の里



14 鬼柳鹿島館



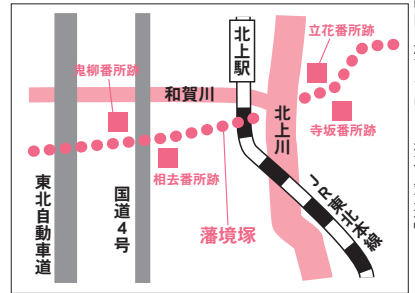
地域の交流の場として活用され、観桜会には多くの町民が参加している



15 南部領伊達領境塚(藩境塚)



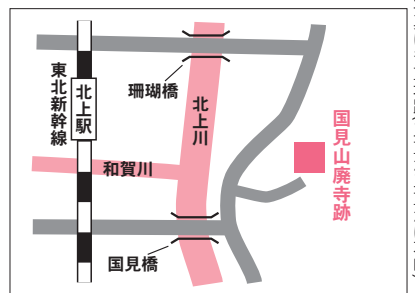
大小の塚が今でも残っている。これは町内に残っている「赤石鼻大塚」



16 国見山廃寺跡



建物跡は現在でも数多く残っている。写真は多重塔跡五重か三重かは不明



和泉式部の墓

9 和賀地区

所在地：和賀町堅川目地内
和泉式部の墓は、全国各地に数多く存在していて、その最北端に位置している。墓所には、安政年間の「泉式部旧跡」と刻まれた石と明治2年に作られた五輪塔が並んで立てられている。和泉式部は、平安中期の女流歌人で「和泉式部日記」「和泉式部集」の著者とされている。

「この堅川目の線目木にある墓が、和泉式部の墓だと伝えられています。少女時代の栗樹屋敷での奉公話がいづできたのかは不明ですが、江戸時代には出来上がっていた伝承。地域の民俗文化遺産として貴重です。昨年、案内標識を立てたり、橋を塗装したりと環境整備をしました。和賀地区の史跡・旧跡巡り観光コースとして内外に発信できればいいですね。思いを大事に保存しながら、地域に生かしていきたいです」和賀地区交流センター長 菊池憲一さん



地域の区長らと地区の史跡などの現状を調査

北上平和記念展示館

10 藤根地区

所在地：和賀町藤根14地割147番地3
藤根地区交流センター隣接
展示館は、故高橋峯次郎氏が収集した「7000通の軍事郵便」と、戦争体験に関する遺品や資料をご遺族からの寄贈を受けて、保存・展示を目的に平成14年に開館。歴史の事実である戦争を伝えるものであり、平和を象徴する施設である。
開館：4月1日～12月25日／入館無料

「戦後64年がたちました。戦争経験者は減り、知らない人は4分の3を超えています。忘れ去られ、風化してきているのが現状です。展示している戦争遺品は歴史の事実です。見学していただき、資料を通して戦争とはどういうものだったのか、どれだけ悲惨だったのかを感じてほしいです。そして、平和の尊さ、ありがたさを考え続けていくきっかけとなってくればいいと思います」館長 高橋源英さん



「戦争の悲惨さを子どもたちに見て、知ってもらいたい」と高橋館長

夏油温泉

11 岩崎地区

所在地：和賀町岩崎新田地内
栗駒国立公園内の夏油温泉地内には、随所に温泉がゆう出し、内風呂のほか露天風呂6カ所が楽しめ、石灰華の付着を見ることができる。天狗の岩といわれる石灰華ドームは、国内にある噴泉塔中最大のものである。数件の宿泊施設があり、5月から11月まで営業をしている。

「秘湯としての夏油温泉は、地域のシンボルであり、夏油のやまやまは、地域の田畑を潤す夏油川の源になっています。古くから石灰華(天狗の岩)の存在は知られており、天然記念物としての価値を失うことのないよう維持していく必要があります。また、夏油高原一帯を地域の宝として大切に守り保全する活動と、温泉経営者や行政と連携しながら、温泉以外も含めた活用を検討していきたいと考えています」岩崎地区交流センター事務局長 佐々木孝則さん



自然環境が豊かな秘湯「夏油温泉」は、約1000年の歴史があるという

成田一里塚

12 飯豊地区

所在地：成田28地割地内
慶長9(1604)年、江戸幕府の定め、全国の五街道に日本橋を起点として一里(約3.937km)ごとに築いたもの一つ。道路整備などで各所で姿を消しているが、ここは当時のまま一対が道路を挟む「狭み塚」が残っている。これは一里南の「二子一里塚」とともに、全国でこの2カ所しか残っていないという。

「五街道の一つ奥州街道は、江戸と陸奥を結ぶ大動脈として二百里に及ぶ日本一長い街道で、その往時をしのぶ縁(よすが)として地区民は大切に保存してきました。現在、地区民や成田小学校のボランティアで、下刈りや枝打ち、清掃などの環境整備が行われています。築かれて400年、成田地区の変容や、それぞれの時代を生きた人々の暮らしを見守ってきたんでしょね」飯豊地区振興協議会事務局長 高橋慧さん



塚近くにある成田小学校の児童は、周辺のごみ拾いに取り組んでいる

清水(すず)の里

13 江釣子地区

所在地：江釣子地内
江釣子は「古墳と泉の里」と呼ばれてきているように、美しい水が豊富にわき出るところが多い。「岩手名水20選」に選ばれている新渡戸観音泉など数多い清水の流れには、いろいろな物語があり、人々の生活と密接に結びついている。地域特産のセリも、豊富な清水が育てている。

「地域には約70のすずがあります。昔からわたしたちの生活に深くかかわってきている存在です。地域での草刈、清掃活動や土砂取りなどを行っています。周辺の環境の変化のためか、すずの汚れが課題となってきています。さらに環境整備に取り組むことと、すずの保存や活用について検討していきたいですね。すずを案内できるボランティアを養成するために、勉強会も開催したいと考えています」江釣子地区交流センター長 松岡静一さん



江釣子地区だけではなく、各地域からすず巡りに訪れている

鬼柳鹿島館

14 鬼柳地区

所在地：鬼柳町地内
南北朝時代、和賀氏の有力支族であるこの地の祖、鬼柳義綱が和賀川段丘に築き居を構えた。東にある丸子館から移ったといわれる。二子城と同様に天正18(1590)、秀吉の奥州仕置によって廃城となった。現在は、自然豊かな景観で、地域の「いこいの場」になっている。

「開発で砂利採取されているので、当時の形状ではありませんが、地域のシンボルであり大切に守っていききたいですね。年数回、町民70～80人ぐらいで草刈りや木の手入れを行っています。平成14年に和賀氏400年祭関連事業で「鹿島館まつり」を開催しました。人だけでなく、鳥や動物に来てもらいたいと桜や梅、ガマズミなどを植えています。歴史講座などを実施して、もっと鬼柳を知りたいですね」鬼柳町自治振興協議会史跡専門委員会委員長 高橋正明さん



「表示板を作成するほかに、ソフト面にも力を入れていきたい」と高橋さん

南部領伊達領境塚(藩境塚)

15 相去地区

所在地：相去町、鬼柳町、立花、稲瀬町、和賀町岩崎地内
南部と伊達の境を伝える領境塚(通称藩境塚)は、寛永19(1642)年に築かれた境界施設であり、一部の大小の塚は国指定史跡となっている。奥羽山脈の駒ヶ岳から釜石市の唐丹まで、約155kmの境界線で最も重要な場所は相去と鬼柳であった。

「伊達(相去町)と南部は、言葉や文化、習慣が異なっていました。現在はほとんど同じですけどね。山や川、谷だけではなく、平地でも境界があるのは珍しいかも知れません。藩境の町だからこそ独特の街並みがありました。屋敷の区割りは今も残っています。今年の市民劇場の題材にもなりましたし、藩境太鼓も創作されました。次代へ伝えるためと、地域を見直すためにガイドブックやマップなどの作成したいですね」相去地区交流センター長 佐藤瑞夫さん(写真6頁15左)



相去地区藩境愛護会では、座学のほかに現地へ向かい研修をしている

国見山廃寺跡

16 稲瀬地区

所在地：稲瀬町地内
平安時代中ごろの山岳寺院跡。山中には、当時の堂や塔などの跡が数多く残っている。平成16年に国の史跡に指定され、現在も発掘調査が継続されている。鬼瓦や八稜鏡、土製の螺髪など多数の重要な発見もある。この地方で平泉が栄える200年以上前の中心的な寺院とみられている。

「平安時代当時の建物や文書などが残っていないのが残念です。平泉につながる史跡として、平泉が世界遺産に登録されたら注目度が上がりますね。今だからこそ、わたしたちも改めて歴史を見直し、勉強をして伝え残していきたいですね。周辺の枝払いなどの環境整備や維持管理に取り組んでいきたいです。案内ボランティアの養成をしていきたいと考えています」稲瀬地区交流センター事務局長 及川克彦さん



地区民だけではなく青年会議所や建築士協会でも環境整備に取り組んでいる